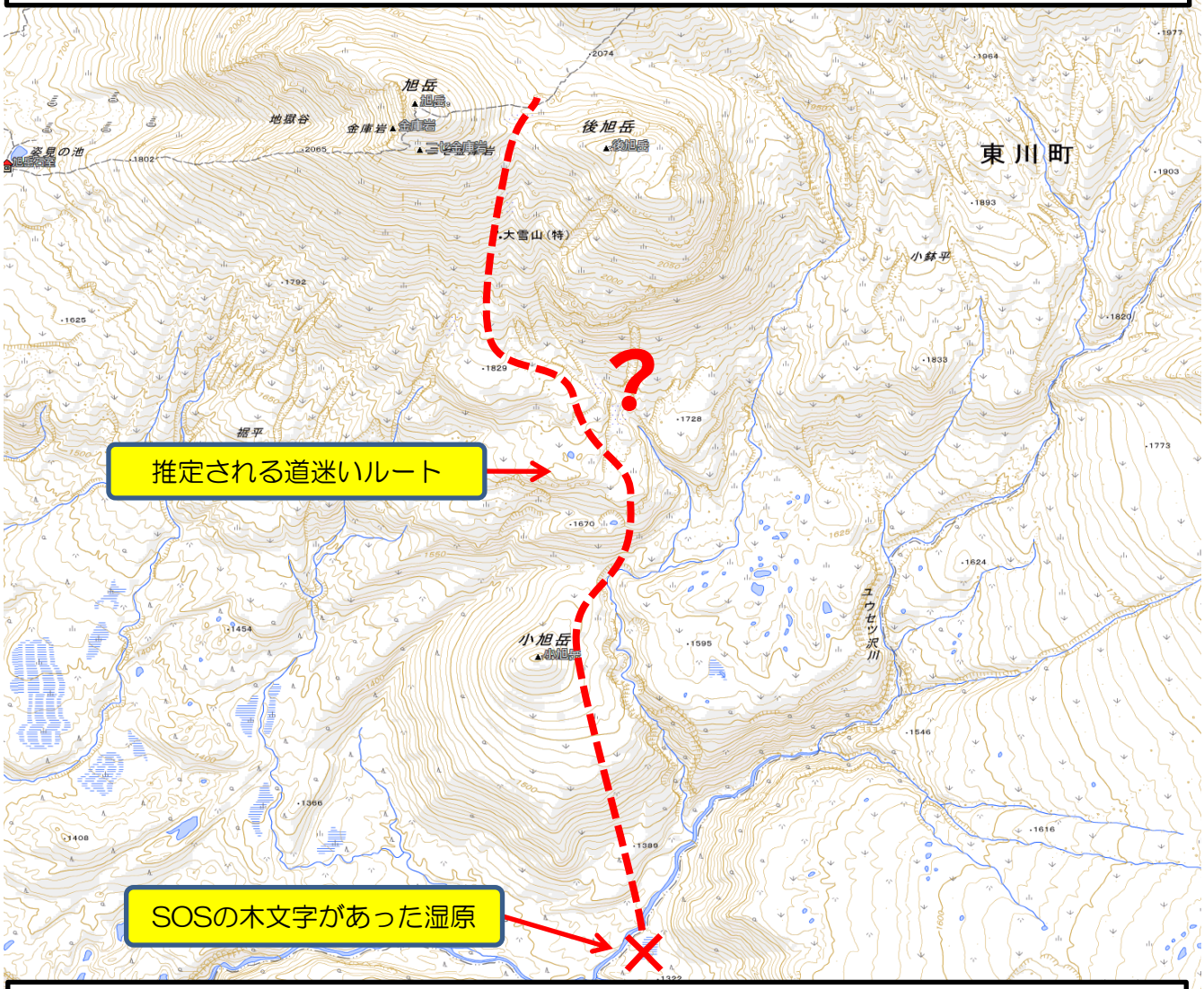
旭岳遭難（1989年7月）

大雪山を黒岳方面から縦走中、残雪の道を間違え、SOSの木文字の湿原に迷い込む。ヘリコプターがSOSを発見した時には、亡くなっていた。



解説

北大山スキー部出身の阿部幹雄氏のレポートによれば、迷い込んだ可能性があるのは、ルートが直角に方向を変えるため道迷いが多発している山頂付近の金庫岩周辺ではなく、旭岳東の鞍部でルートを失い、遭難場所に続くスロープへと迷い込んだと推定されている。この場所は、何の目印もない緩斜面で、しかも岩石地の多い高山帯ではふみ跡が残りにくい。さらにこの場所には大きな雪渓があった。雪渓では固定された足跡が残りにくいため、容易に道を外しやすい。

まとめ

①ルートミスの主要な原因は環境にある。高山帯では登山道が砂れきやその他の原因で分かりにくかったり、逆に登山道でないところが登山道に見えたりする。

②雪や残雪もルートミスを誘う大きな要因となっている。

③残雪期では地形の印象が変わる。

④視野を制限する悪天候もルートミスを起こしやすい。

以上解説内容は、すべて「村越　真「山岳読図大全」（山と渓谷社）」から抜粋。